令和７年第４回　北海道議会定例会〔予算特別委員会〕（総合政策部所管）開催状況

開催年月日　令和７年１２月８日（月）
質　問　者　民主・道民連合　笹田　浩　委員
答　弁　者　総合政策部長兼地域振興監

質　問　要　旨	答　弁　要　旨
一　道総研への運営費交付金について まず、道総研への運営費交付金、これについて質問しますけど、ヒグマの生態や行動の研究や、人里への出没要因の分析、また、効果的な防除技術の開発などは道総研の協力を得ていると認識しています。 今年のように捕獲頭数が想定を大きく上回るなどして増加したＤＮＡ検査などの費用や、それにあたる人員などについて道総研ではかなり苦慮しているようであります。そのように聞いています。 ヒグマのえさとなるドングリが今年は壊滅的な状況だ、こういうことも聞いています。これについてもこの道総研の機能により原因の究明が必要になると思います。 また、地球温暖化による海洋環境の変化、スルメイカだったり、秋サケだったり、この水産資源調査もこれも道総研、そして農業、林業も道総研だのみであります。 泊原発再稼働の判断にあたって、新たな活断層の判断が今定例会で議論されています。 道総研のエネルギー・環境・地質研究所の意見というのが、知事の知見といいますか、知事が独自で持つ知見だとも言えるわけであります。 これほど重要なこの道総研の運営費交付金、これについて、今年４月からの新たな中期計画でさらに５年間、１％のシーリング、これが続いているわけであります。 道総研が優秀な人材確保だったり、資器材を更新したり増強したり、物価高騰やこの人件費増の中でも必要な研究が十分可能な交付金とすべきだと私は思うわけですけども、その所見を伺います。 **【指摘】** 部長から、予算の確保に努め、持続的な運営を支援すると、これ以上何もないんですけど、本気でやってください。 ただですね、１％のシーリングの件でありますけど、独法化してもう 15 年、15 年続けてきて更にまた５年、いやこれはちょっとですね、一般的に委託じゃないでしょうけど、運営費を支援していくのに 15 年やって５年って、20 年やるんですよ、20 年っていったら、20%になるわけではないんですけど、かなり削減されているわけですよ。その分野だけでしょうけど。計画の期中であってもですね、やめる時は近いというふうに思っていますので、道総研や関係する各部と協議して、もうそろそろやめた方が良いんじゃないですか、ということを指摘します。	**（総合政策部長兼地域振興監）** 道総研への運営費交付金についてでございますが、道総研は、幅広い分野にわたる研究開発機能が集約された強みを活かし、多様化する道民ニーズや社会情勢の変化を捉えながら、道の重要な施策の推進に対応する研究機関として、大きな役割を担っているものと認識しております。 こうした中、道では、道総研に対し、法人運営上、必要な経費について運営費交付金等を交付し、研究資金の安定的な確保に努めてきたところでございます。 道といたしましては、今後とも、道総研が、効率的かつ安定的な運営のもと、ヒグマ対策や気候変動への対応など、多様化する様々な課題の解決に一層貢献できるよう、必要となる予算の確保に努め、法人の持続的な運営を支援してまいります。